

発 言 通 告 書

令和3年11月29日

松山市議会議長 若江 進 殿

松山市議会議員 向田 将 央

次のとおり通告します。

発言順位	3	受領日時	11月 29日 午後 1時 10分	1 枚中 1 枚目
質問等の方式	一問一答方式		一括方式	発言時間 約 25 分
答弁を求める者	・市長 ・教育長 ・農業委員会会長	・選挙管理委員会委員長 ・監査委員	・公平委員会委員長 ・公営企業管理者	

No	件 名	発 言 の 要 旨
1	松山市駅前広場整備事業に伴う社会実験について	<p>(1) ホームページには「3万人の乗降客」と記されているが、この「3万人の乗降客」とは、具体的にどのような人たちのことを想定しているのか。</p> <p>また、同ページには「公共交通の乗り継ぎが快適で便利になる」と記されているが、「公共交通」とはどのような交通手段をイメージしているのか。</p> <p>(2) 公共交通機関を利用した移動を便利にすることが悪いと言っているわけではない。ただ、社会実験を通しての市民の声をどのように拾うのか。</p> <p>(3) 社会実験の検証は2つ行われたわけだが、本市がこの2つの検証を行った目的について何う。</p> <p>また、どのような検証結果が得られたのか具体的に何う。</p> <p>(4) 今回の事業について費用対効果を考えた場合、その効果が限定的であると考えられる徒歩で移動する人たちに偏った事業になってはいないか。</p> <p>また、自家用車や自転車等を移動手段とした利用者を想定した計画も、同時に行うことはできないか。</p>
2	俳都松山としての取組について	<p>(1) 本市は俳都松山として、市民にどのように俳句の魅力を感じてもらふ機会を提供し、全国にどのように俳句の魅力を発信しているのか。</p> <p>(2) 俳句の街の子どもたちに、学校教育で俳句をより身近に感じてもらうために、本市では、教員の皆さんが俳句を楽しく感じる体験として、これまで教員の研修に「句会」をどのように取り入れてきたか。</p> <p>また、今後どのように取り組むのか。</p>